

## 平成30年度 小城市立小中一貫校芦刈観瀾校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標	
ふるさとを愛し、未来を拓く、心身ともに元気な子どもの育成 ～「ともに」「つなぐ」小中一貫教育～	子どもの夢をはぐくむ 小中一貫教育の充実	① 学力向上 ② 豊かな心の育成 ③ 基本的生活習慣の確立と体力の向上 ④ 小中一貫教育の推進 ⑤ 生徒指導体制の確立 ⑥ 保護者・地域連携の推進 ⑦ 子どもたちの多様な体験活動時間確保のため働き方改革に沿った学校業務の改善

重点目標を具体的に評価するための項目や指標



3 目標・評価						
① 学力向上						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	小学部 担当	中学部 担当
学校運営	○授業力向上	・小中一貫した系統性のある指導方法の研究	・「学力向上のため授業を充実させたり、指導方法を工夫したりしている」の項目の職員の達成率を85%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9年間を「つなぐ」教育活動の研究を小中教職員が教科を軸として「ともに」磨きあう部会体制を一層充実させ、今年度のグループ授業研の実践を日常的に取り入れると共に、本時のめあて達成につなげ、生きる力を育む教育活動を行う。</li> <li>・昨年度から取り組んでいる「書く活動」を教科ごとにさらに整理し、研究の検証方法、客観的評価の方法を確立していく。</li> </ul>	横尾	武富
教育活動	●学力向上	・学力向上対策	・県及び全国学習状況調査において、県平均を上回る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県及び全国学習状況調査「4月調査」の課題を分析し、「12月調査」までに課題を解消する取組を計画的、継続的に行う。</li> <li>・補充学習を強化し、基礎基本がきちんと身に付くように、単元毎の習熟プリント等を使って着実に理解できるようにする。</li> <li>・小中一貫による9年間を見通した教育活動を充実し、「なぜ勉強するのか」等、進路学習やキャリア教育にも力を入れていく。</li> </ul>	堤	古賀

教育活動	○学習環境の充実	・家庭学習及び学習規律の充実	・「朝の学習や家庭学習によく取り組んでいる」と思 う」の項目の児童生徒の達成率を全学年とも80% 以上にする。	・「家庭学習の手引き」を作成・配布し、強化週間等によ り、保護者と共に児童生徒の家庭学習への意識改革を 図る。 ・小学部は、「朝の時間」の活用を図り、スピーチや計 算、漢字、読書時間を設定し、全職員で取り組む。 ・中学部は、確実に朝の読書時間を確保していくよう努 める。 ・9年間を通した「芦刈観瀾校学習規律表」をもとに、基 本的な学習習慣の定着をはかる。	妹尾	真子 武富
教育活動	○読書教育	・読書活動の推進	・学校図書館年間1人当たり貸出数目標を小学部 低学年120冊以上、中学年100冊以上、高学年 80冊以上、中学部15冊以上にする。	・読書を推進する活動(読書マラソン、図書館まつり、読 書週間等)を充実させる。 ・読書傾向に偏りが生じないよう、発達段階に応じた本 の紹介をする等啓発に努める。 ・朝読書等を通して、中学生生徒の読書に対する関心を 高める。	妹尾 吉田希	高尾
<b>② 豊かな心の育成</b>						
教育活動	●心の教育	・豊かな心の育成	・「自分は、命を大切にしている気持ちや思いやりの気 持ちがあると思う」の項目の児童生徒の達成率を 85%にする。 ・QUテストの学級満足群の割合が、1回目実施よ り2回目実施が高くなるようにする。	・人と人との関わり(つながり)を大切にし、児童生徒の 温かなやさしい気持ち、感謝の気持ちを育むことがで きるよう、人権集会や道徳の授業の中で、子どもたちの実 態に応じて自分の行動を振り返る機会を設ける。 ・1学期のQUテストの結果をもとに児童生徒の実態を把 握し、2学期からの学級、学年経営に生かす。	吉田	別府
<b>③ 基本的な生活習慣の確立と体力の向上</b>						
教育活動	●健康・体づくり	・健康教育、安全教育の推進 ・食育の充実	・健康、安全に係る教育活動の充実を図る。 ・児童生徒に食事の重要性、食事のマナー、感謝 する心等を身につけさせるための教育的実践を図 る。 ・「食育、健康・安全教育の充実」の項目の児童生 徒及び保護者、職員の達成率を80%以上にす る。	・小中の発達段階に考慮し、外部講師等を活用した防煙 教育、性教育、薬物乱用防止等の授業、講話、講演会 等を計画を見直す。 ・衛生面での意識を高めるため、生活衛生チェックを継 続的に行い、基本的な生活習慣の向上を図る。 ・全職員共通理解のもと給食指導を行い、食に対するマ ナーや意識の向上を図る。 ・栄養教諭と連携し、児童生徒に食に関する指導や保護 者への啓発(広報活動、給食試食会など)を推進する。	馬場 円城寺 川田	大久保 光石 樋渡

④ 小中一貫教育の推進						
学校運営	○小中一貫教育	・9年間をつなぐ教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9年間を見通した小中一貫教育について、全教職員で強く押し進め成果を上げていく体制を整備する。</li> <li>・「小中一貫による9年間の教育活動を充実させていると思う」の項目の保護者の達成率を70%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科部会において、9年間で身につけるべき学力の要素を把握し、9年間での学びについての基本的な考え方や方法を検討しながら、小中一貫教科カリキュラムに沿って授業を改善していく意識や実践力を持つ。</li> <li>・小城市教育におけ小中一貫教育への期待を受け、毎年11月に公開授業を行い、成果と課題、課題解決に向けての情報交流を行う。</li> <li>・特別活動計画(児童会・生徒会)について、「つなぐ」視点から、小中一貫教育を見通した取り組みを工夫する。</li> <li>・9年間を見通した特別支援教育の推進を図り、全職員がチームの意識を持ち、特別支援教育コーディネーターを軸とした研修に取り組み、特別支援教育のスタンダード化をはかる。</li> <li>・小から中、中から小への職員による交流授業や学年及び異学年職員による授業交換や授業検討会等を取り入れ、小中の連携を図る。</li> </ul>	川浪 内田 貞松	水田 江越
⑤ 生徒指導体制の確立						
教育活動	●いじめの問題への対応	・いじめの未然防止, 早期発見, 早期対応及び再発防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒のいじめ防止に対する意識を高め、いじめを許さない学校風土を定着させる。</li> <li>・「いじめをなくすようにしていると思う」の項目で、児童生徒及び保護者の達成率を80%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校のいじめ防止基本方針に沿い「いじめの問題に関する点検項目」に基づいて定期的に自己点検を行い、いじめ問題の対応について改善充実を図る。</li> <li>・あいさつやふれあいを大切にすることを全教育活動で推進・実践し、すべての児童生徒及び教職員、保護者、地域の方々と心をつなげる場面を数多く創る。</li> <li>・人と人との関わり(つながり)を大切にし、児童生徒の温かなやさしい気持ち、感謝の気持ちを育むことができるよう、全教育活動を通して学校行事や道徳、学級活動等の授業と関連させながら、小中全教職員で人権教育・特別支援教育の視点に立って指導していく。</li> <li>・毎月10日の小城市「いじめ防止、心を考える日」の取組(アンケート、集会活動、人権教室、命の授業等)を、人権・同和教育や教育相談、生徒指導の年間計画と関連させ、計画的に実践し積極的に関係機関及び外部講師の協力を得ながら児童生徒の心を育てる。</li> <li>・人権・同和教育の視点に立ち、望ましい人間関係育む「道徳」学習の実践(35時間)</li> </ul>	伯野 向井	森崎 中尾
教育活動	○自己肯定感を高める生徒指導体制及び教育相談体制(不応・不登校対応)	・不応及び不登校の解消	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階に応じた生徒指導及び教育相談を充実させる。</li> <li>・不応、不登校及び不登校傾向のある児童生徒に対する情報を共有し、段階的な支援が行える体制を整え、不登校児童生徒数の増加を押さえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全児童・生徒に対する教育相談を年間2回以上実施する。</li> <li>・生徒指導協議会や小中の連絡会等で情報を共有し、組織的な対応につなげていく。</li> <li>・不応・不登校児童生徒の対応については、必要に応じて関係機関等に効果的につなぎ、連携の充実を図る。</li> <li>・スクールカウンセラー、スクールサポーター、心の教室相談員との連携を強化し、生徒の心の安定を図る。</li> </ul>	時崎	岸川

⑥ 保護者・地域連携の推進						
学校運営	○各種連携	・保護者及び地域等との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ボランティア参加人数を、のべ400人以上にする。</li> <li>・学校の情報発信に対する保護者の達成率を70%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あしかり学」を中心に地域との連携を強化する。また地域ボランティアの支援活動実施後に、アンケートを実施し、改善点を把握する。</li> <li>・地域連携コーディネーター及び芦刈観瀾校配置の地域連携担当による定期的な協議の時間を設定し、より効果的な取組となるよう工夫改善するとともに、学校だよりやホームページ等に積極的に情報を発信する。また、PTAと協働する等して保護者との連携を一層強化する。</li> <li>・地域連携担当を中心に各学年の「あしのご学習」の記録を整理し、総合的な学習の時間の全体計画等について、9年間を見通した充実した内容となるようさらに見直しを図る。</li> </ul>	兵動下瀬	西久保濱谷武藤
⑦ 子どもたちの多様な体験活動時間の確保のため働き方改革に沿った学校業務の改善						
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務の効率化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取り組みを推進するとともに、教職員の時間外勤務について前年比一月当たり10%削減する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務サーバー上の各分掌が情報を共有しやすいように、フォルダ構成を整理する。</li> <li>・各教職員の勤務時間を把握し、特定の教職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。</li> <li>・小城市統一の部活動休養日(第3週日曜日)含む平日4日、土日4日の部活動休養日を設定し、確実に実行する。</li> </ul>	中武	田中

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目

※達成率 … ④を最高評価とした「4段階評価」の  $(④ \times 3 + ③ \times 2 + ② \times 1) \div (\text{回答人数} \times 100 \div 3)$  の数値(割合)